

## 第1回兵庫県公立大学法人評価委員会

### 1 日時等

- (1) 日時 令和7年7月1日（火）13:00～15:00
- (2) 場所 兵庫県庁2号館5階庁議室

### 2 出席者

- (1) 評価委員：中村委員長、高崎委員、田中委員、巳波委員、米田委員
- (2) 兵庫県公立大学法人：國井理事長、高坂兵庫県立大学学長兼副理事長、平田芸術文化観光専門職大学学長兼副理事長、小川副理事長兼事務総長、陰山理事兼副事務総長・兵庫県立大学事務局長、守本副事務総長兼芸術文化観光専門職大学事務局長、西島兵庫県立大学事務局副局長兼教育企画部長、田中法人事務局経営管理部長・兵庫県立大学事務局副局長兼経営企画部長、西野兵庫県立大学事務局教育企画部大学教育改革室長、有吉兵庫県立大学事務局社会貢献部長、中津法人事務局経営管理部参事（経営担当）・芸術文化観光専門職大学事務局経営企画部長
- (3) 県：木村理事、有田総務部長、増澤総務部次長、井上大学振興官、辻大学振興班主幹

### 3 内容

- ・第二期中期目標期間の業務実績に対する評価について
- ・その他

### 4 意見交換の概要（発言者 ●：委員、○：法人又は事務局）

●卒業者の県内企業の就職率が、令和4年から令和6年で下がっているが、状況を教えてほしい。大学としては県内への定着を進めていく方針なのか。

○企業は人手不足であり、就職活動解禁のタイミングで、特に大企業は人材を青田買いしている。理系は地元志向で地元企業に就職する傾向が高いが、文系は大企業志向の人が増え、県外にどんどん出て行ってしまう。県立大学なので、県への定着は重要で、理系であれば県内企業との共同研究は定着への1つの道。

○データサイエンス系の社会情報科学部の卒業生が数字に影響している。IT系の企業が県内に少なく、初任給も大都市に比べ低いため、東京や大阪に行ってしまう。県内の優秀な企業に就職してもらいたいと思っており、IターンやUターンで2、3年後に戻ってくるような支援を強化するため、準備を進めている。

●県立大で県内就職率、芸観大で但馬地域への就職者数が報告にあるが、これらが評価尺度となり、大学側は県内企業への就職を誘導することが目的になっていないか。

○但馬地域は4年制大学がなく7割が県外に出ていた。芸観大は、全国から留学生含め毎年90人前後の学生が入学、この4年間で47都道府県全てからきており地域活性化に貢献している。最初の卒業生が8人豊岡市に残った。豊岡市総合計画では、本学の学生の4割が残れば豊岡の人口減少はほぼ解消、2割でもいい影響が与えられるとされている。現在15%弱だが、地域から評価され、昨年以上に地域企業が採用に力を入れている。

特徴ある大学のため、学生の実践に任せながら就職活動を支援している。1期生が卒業しオリエンタルランド、JTBなどに就職、本学を目指す学生にとって魅力的な実績となった。学生の希望と地域の期待とのバランスに注力し支援を進める。

●日本全国、世界から集まってくる学生の就職先が、一部の県、兵庫県だけに留まらず、日本全国、世界で活躍するような人材を育成することが重要。県内定着率を評価尺度とすると、その数値を上げるために誘導しかねないことを危惧する。

○大学が県内への就職を誘導することは今の状況ではできない。

芸観大は地元貢献を大きな柱とし、地元との交流で、卒業時に魅力を感じ但馬に就職している。県立大の場合も、企業との共同研究などで、愛着が湧いたり、企業の理解が深まるなどの効果が出てきている。誘導ではなく、地元の高校生が県立大に入り、地元で就職したい場合、理系はこのようなやり方はよいと思う。

●県内でも優良企業はあるが、名前を知られていないため、学生は有名企業に就職活動を行う。そのため、キャリア教育も重要。誘導ではなく、県内の優良企業と学生のマッチングに関して、大学は学生にどのようにアプローチしているか。

○毎年、県内企業の社長15人を招く講座や、バスをチャーターし県内企業への訪問も行っている。県内企業へインターンシップも依頼しているが、それだけではなく、1回生からキャリア教育も実施している。グローバル化、AI、環境問題と様々な変化がある中で、20年後に活躍する学生を育成するために、教養教育でマインド教育する必要がある。タフで多様性に対し寛容な人材を育てたい。

●GBCについて、英語のみで授業だが、学生が授業についてきているか、フィードバックが大学でしっかりされているのかお聞きしたい。

○日本人学生は大学入試の語学力では専門科目にはついていけない。そのため、5～6週間の海外研修など、最初の半年で集中して徹底的に英語力をマスターさせる。テキストは、レベルを落とさず、英語力を上げてそこに合わせていく。eラーニングなど、英語力をブラッシュアップできる独自の補修教育や、教学IRで徹底してアンケートをとるなど、学生のフィードバックは行っている。

●芸観大1期生の53名が就職、6名が進学とあるが、入学者約80人に対して

人数に乖離があるが、就職・進学者以外の学生の状況は。

○退学者や休学者もいるが、単位取得が難しく、留年する学生も多い。私が授業を行っている国際教養大学も留学が前提で、4年で卒業する方が少ない。4年で卒業が絶対ではないと思っており、学生の希望に合わせて指導している。1年延ばし5年で卒業し、新聞社に内定や、東大やベルリンの大学院への進学準備をしている学生もいる。積極的な留年、休学とご理解いただきたい。

●地元就職率の件は、県外で活躍はするが、最終的に兵庫県に戻ってくるなど、兵庫県のことを常に考え、仕事上でも地域活性化、県との取組ができないかなど、大きな視点で考えることが重要。グローバル化についても、企業も大学にとっても欠かせないため、自信を持って評価Aという取組をしてほしい。

県立大のCEFRの指標が、単年でなく累計で目標が変えづらいとあったが、目標値は重要であるため、今後変えていく認識でよいか。

留学生の派遣は、評価Aに上げていく中で具体的に考えていることはあるか。

○卒業生の中には、東京大阪の企業に就職しても、数年後に豊岡に戻ることも考えていると言っている者もいる。そのような学生が、JTBなどの企業に行くことは、長期的に見ると、兵庫県の大きな戦力になると思う。

留学では、文化庁のクリエイター等支援事業の補助金の採択が決まった。国際的に活躍するクリエイター人材を育成するための補助金で、これを活用し、選抜はあるが希望する学生はほぼ無償で、今後は留学ができるため、思う存分海外で活躍してもらいたい。

○県立大のグローバルの目標値の設定については、ご指摘の通りである。当初設定した目標値を、どのように設定するのがよいか議論し、見直していきたい。

○留学生派遣は物価高騰などで条件はよくないが、色々な方法を考えている。理事長裁量予算、大学予算で、海外派遣の援助をしているが、交換留学を増やし、ゼミのプロジェクトなどで海外交流を進める。英語だけの授業はGBCのみだが、理系のグローバルインターシップで英語のみのコースを作ろうとしている。海外交流を広げるため、外部の力を借りながら進める。

●16ページの芸観大の学生理解度はどのように測られているか。

○必修科目で期末の授業終了時にアンケートをとっている。「授業内容を理解し習得できたか」「この授業に意欲的に取り組んだか」「この授業によって新しい知識の習得、または、自身の能力の高まりや成長に繋がったか」という質問について、「強くそう思う」「そう思う」という回答を拾い上げて指標を測っている。

●芸観大の地域活性化に貢献する専門職業人の育成で、自己評価aとした根拠は具体的に何か。何か定量的な指標で評価した点はあるか。

○定量的な指標はない。但馬への地元貢献という取組も踏まえて評価をした。

●法人から、兵庫県に対して何か支援してほしいこと、要望などはあるか。

○経費を減らすため事務のパフォーマンスを上げることが重要。県の派遣職員は3～5年で戻り熟練度が継承できない。パフォーマンス向上には、派遣期間をどうするか、専門人材のプロパー化が必要で、県と検討したい。会長をしている神戸市スポーツ協会は職員100人のうち、神戸市からの出向者3人以外はプロパー。

●日本の大学は海外と比べアドミ部門が弱い。教育者ではなく大学を支える人。欧米は専門家がいて、日本でも昇給や昇進について考え、採用し育てる必要がある。海外の学会発表でも、語学含め内容の助言ができる専門人材がいれば全然違う。

●プロパー化については、4～5年前から議論にあがっているが、歩みはあるのか。

○今現在、プロパー化の実績はない。県からの派遣職員の他に、有期雇用、非正規雇用の職員がいる中で、優秀な人材は数年前から、毎年数人ずつ有期雇用を無期雇用にしている。ただ、県からの派遣職員の置き換えは実施されていない。

●独自で採用も難しいか。例えば芸観大で採用なども難しいか。

○文化庁のクリエイター等支援事業の補助金は人員の採用もでき、本学は3名の国際交流の専門人材を雇用予定。5年の年限があるため、その後どうするかは今後検討する。

○保健室の看護士は、県予算で大学の方で1人採用し、徐々にだが進んでいる。

●両大学の教育研究及び社会貢献における連携では、両大学の交流によるシナジー効果をもう少し大きくできないか。目標作成時は、そのようなつもりだと読み取れるが、現段階での両学の評価と、今後の連携はどのように考えているか。

○2大学交流する部分はあるが、むしろ競争する部分を作っていくべき。交流して効率化、パフォーマンスを上げる部分もあるが、学部が競争する環境、2つの大学が競争する環境も大事。

○地域資源マネジメント研究科とは教員、学生ともに交流をしており、但馬で綿密な関係を引き続き作っていきたい。

●教育メニューの拡張、両大学の科目の相互互換などで考えていることはあるか。

○県立大はセメスター制で、芸観大と時間割や学年歴が違うため、遠隔でも授業を一緒に実施するのは難しく、従来型の単位互換は難しい。ただ、先生が各大学に教えに行くことは出来る。学生生活では、寮生同士が交流することはできる。